



發行所 公民館
町 公所
北川郡 司
北洋印刷株式會社
(電話 204番)

卒業生の途出にあたって

社會の皆さんへお願い

卷中學校長 片桐 薫

一、「社會の人は皆先生である」という氣持で。

教師の手から社會の手へ

由來先生とは先に生れたものをさすのであります。先に生れたもの、即ち先輩は後輩を教育し指導する教師の責務を負わせられていたわけです。従つて社會人はお互に先生であつて、先に生れたものは後輩に模範を示し立派に育てる義務を感じ合つていた。そこに正しい社會が生れ同時に又立派な社會人も育つたのである。成人社會の皆さんは、卒業生の先輩としての教師であります。未熟ではあるが陶治性のある青年のため、正しい社會を實現し、社會入門者を正

しく育てるよう、御努力願ひたい。教師の手から社會の皆さんの手へうつされる卒業生に幸福のあることを祈つてやみません。

三、特に温い氣で受入
過日高校の卒業式に臨みました際、色々の方々から卒業生に、はなむけの言葉がありま

二、社會教育を根強く義務教育を終了した部分の人が社會に旅立つわけです。教育の枠も學校を離れ社會人とするの社會教育の對象となるのです。町當局教育委員會、公民館役員、各種團體の方々等の御考慮により、意義深い社會教育の恵に浴されるよう願ひしてやまぬ次第です。新しい社會入門者に關心をよせられまして、社會教育面より正しい社會人として養育するよう施策を考へていたゞきた次第です。

した。そのお話の中に申し合せたように出てくる話が。諸君を受入れる社會は複雑多岐混沌として、實社會は諸君の期待に反する社會必ずしも樂しからず、というようない意味の言葉でありました。希望に満ちた途出を受入れる社會か、かかる社會であるぞと警告せねばならぬ現實を悲しく思います。せめてもの御願は、希望を挫かないよう、温い氣持で受入れてほしいのです。卒業する生徒は丁度小学校へ入學する時と同じように、これからの進む道は新しい

未知の世界で、誰が成績がよいか悪いかも未知な同一色にぬられた出發であります。それだけ、學校生活を清算し、全員が希望にみちた朗かな心境で社會へ出るのです。この新しい覺悟を正しく伸ばしていくよう社會の皆さんより御努力いたゞきたい、學校成績が悪いから、昔こうだつたからだめだなど、過去のことにのみ先入感とせず新しい希望に向つてはげむような、これからやる仕事に生甲斐を感じて努力するようにはげましていたゞきたいものです。

卷町議會だより

- 一月二十三日、土木厚生合同委員會出席委員 欠一名 土木委員七名 欠一名 厚生委員六名 欠二名
- 庶民住宅工事延期願について、現場について調査を行い、検討、竣工期限を三月十日までとすることを承認した
- 一月二十八日 議員協議會出席十八名 欠席八名
- 第七回追加更正予算
- 卷町職員給与に關する條例改正について

議題について調査検討を加へ承認した

平和の象徴 國旗を掲げよう

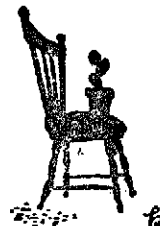
國があれば國旗があるのは當然だ、しかし近頃は祝日にも國旗を立てぬ家が多くなつた。祝日のそぞろ歩きに山かけの松林の中の小屋から目もあざやかな國旗が見えるのはいい知れぬ喜びを感じるそれなのに、現状はあまりにも祝日(國旗)への關心が少くないようだ、日の丸が國旗として制定されて百年足らず、戰爭中は、軍閥の指導と強制によつて適當に神聖化され、神話と歴史との混交まで行われた、その反動によるのか、戦後は風呂敷の代用とまで見下げられ昭和二十四年一月日本國旗を私達日本に返還されたにも拘らず祝日に掲揚する家さえ今なお少ない。

これは本然の姿に立ち返り、平和日本の象徴である日の丸を、正しく理解し、これを愛しそして美しい氣持で國旗を掲げたいものである

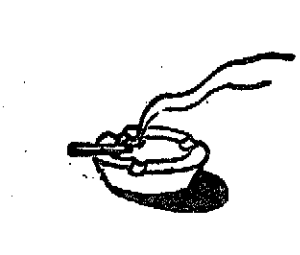
今月の旗日
春分の日
三月二十一日
昔から彼岸の中日と

私たちの 人權擁護委員

- 1. 自由思想に關する啓蒙宣傳
- 2. 民間における人權擁護運動の助長
- 3. 人權侵犯事件の救済のため、調査情報、關係官公署團體への報告
- 4. 貧困者に対する訴訟援助、その他人權擁護のため適切な救済
- 5. その他人權の擁護



の相談
常に關係者の身上に關する秘密を守り、人種、信條、性別、社會的身分、門地又は政治的意見、若しくは政治的所屬關係によつて、事件を差別的又は優先的に取扱ふことはなく公正に職務を行うのであります。



或る新聞の「川柳」に「巨産ころもの下によろい着て」。七年目新教育も古くなり「新日本復興と復古がいみあい」。逆コースか願

酒はこりこりだ一生存まないと決心しても、やがて傷がなおると又ちびりちびり呑みはじめる。此の人生凡夫の行路と時代も同じ筋を辿る感がある、そこで古來聖人君子はこの凡夫の辿る道を悟らせる爲に、色々の教をひろめた。その内容には方向的指示と意志的努力の二つが常に示されて「民主の船」が彼岸に着けない一つの原因に意志の薄弱という障害があるのではなからうか、人柄のよい人間の成長には不斷の修養が必要である。経済復興には勤勞奮闘者の育成が大切である、これ等何れも意志の力の欠除する時は實踐にうつされぬのである、酒醉の慘禍を再望しないためには、民主社會に意志の人をもう少し育てねばならぬ時が來た感かしてならない。

憲法改正は 是か非か



井上 京子 六区 絶対私利の反對で...

藤田 松市 九区 憲法は敗戦後の制定にて現在我が國が...

菅井 秀雄 十区 三、凡ゆる意味におい...

一、賛成 二、反対 三、その理由を簡単に...

和田 隆一 一區 三、国際情勢が緊迫し...

星野 静也 十區 二、反 對 三、占領下、複雑な事...

加藤 弘明 二區 一、賛成 二、反 對 三、現在の憲法はマッ...

森川 謙一 七區 二、反 對 三、現在の憲法はマッ...

三、その理由を簡単に...

成人式 宣誓



第五回 成人式 宣誓

幼い日の教ある想い 出を抱いて吾等は、こ...

快に堪えないところ 講和も成立し一條の...

先ず以つて衷心より 皆様に御禮申上る次第...

れを信じ眞心を捧げ盡 して来た私達は敗戦に...

あゝ何んと言ひ危険 なことであつたであ...

時間厳守で明るい集會



「団体から」のおたより

公民館

中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

農家より

陽春のこえとともに 又私たちの土と鐵との...



遊戯 忘れ得ぬ わらべうた

まいましよう 頭だいにして...



俳句 お知らせ

俳句を作つたこと 俳句を作つたこと...

お告知

待ち申しております。 この次の句會は来る...

ひめゆりの塔

「また逢う日まで」 「山びと学校」を作...

春と共に

私たちの生活は、緑 の中にある。私たち...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...

公民館 中學校の建設と並んで、戦後の教育面に特...



隨想

人間無罪論

本間 衛

「生きる」と言ひ映
響を觀て外へ出たのは
夜の十一時頃だつた。
雪の降る夜の町をいろ
いろ考えながら私は歩
いた。死んだ市民課長
のお通夜の晩、そこへ
集つた人々は眞に「生
きる」ために絶望的な
余命を捧げつゝして死
んだその男について語
り合つた。若い男は、
死んだ市民課長に功あ
りとして涙を流す、思
慮深い老人は「わから
ない。どうもわからな
い」と言ひ、一人の男
は、すべての成果は「
偶然がしたんだよ」と
言ひ、私はいろいろ考
へた。功罪とは何ぞや
、功罪を決するものは
何かと言ふ事である。

パール博士は極東國
際軍事裁判で日本の無
罪を主張した。そして
その判決文を必然的無
罪とすれば「生きる」
で偶然説を唱へた男は
偶然無罪論者である。
トルストイは「戦争
と平和」でナポレオン
を英雄から葬つた。功
罪は相伴うものとすれ
ばナポレオンはトルス

トイによつて救われた
とも言える。然し、イ
ブセンの言ひより大
衆は愚劣なのか、第二
第三のナポレオンに對
してはまだに功罪の論
争が絶えない。私は音
樂をきくと何時もそう
思う。音樂に功罪はな
い、したがつて音樂の
世界に戰爭はない。

先日も岡野文相と北
哈吉氏の漫才論争？
が新聞に出た。日本が
四年間も戰爭を續けた
事は偉いとその功を認
める岡野文相の前任者
はその非(罪)を認め
た天野文相だつた。そ
してこの二人の文相は
同じ吉田内閣の文相で
ある(不思議な内閣で
あると思う)。
人間はそんなに功罪
がほしいのであろうか
。一苦しい時の神頼み
「や」天を仰いで祈る
「や」と言ひ言葉がある
功罪をのみ追ひ求める
人間を信じなくなつた
時の言葉である。私は
この言葉をきくと悲し
くなる。事實天を仰ぎ
その星や月に誰がその
功罪を求めよう。「生
きる」の主人公が夕空

を眺めて自然の美しい
生命のよるごびにひた
つて居る時、はつと我
に歸り「わしはこうし
て居れない」と言つて
苦しい功罪の世界に飛

みたまの記

暮れ?

市場の表情

(二月三十日)

年は改つて一九五三
年、曆の文字も西曆年
號が横行する時代、や
れジェット機だノヤれ
雑で且つ現實的に大き

御用心

貴方は狙われている?

卷町の十大疾患(三月)

10 結核	9 神經痛	8 外傷	7 肺炎	6 皮膚病	5 耳病	4 目の疾患	3 齒科	2 胃腸病	1 呼吸器の疾患
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五

び込んで行き、そこで
戦わねばならなかつた
事を私は悲しく思う。
私は人間を信じたい
人間を信じなくてどう
して生きられよう。然
し私は偶然無罪論者にも
必然無罪論者にもな
りたくない。私は人間
無罪論者になりたい。
そんな事を考えながら
私は夜道を歩いた。
★ ★ ★

く變動しつゝある時、
舊体依然として二月正
月を迎えんとする歳の
市の表情をのぞいてみ
た。
お宮の社頭では山元
の人だらう、焚木負を
背に手拭をかぶり、賽
錢箱を台に風呂敷をひ
ろげ、焚木負を数えな
がら「魚にみかんに」
といつて居るオカカと
娘の余念のない姿を尻
目に鳥居をくゞつて街
へ出た。まさに足の踏
み場もない雑踏ぶり、
「これでも幾分かへ
りましたかね」とは人
が貝もくれないでいさ
ゝか退屈だといつた恰
好の小間物屋の話。
どうせ見るなら端か
らというので急いで上
町へ走る。

春めいて

竹野 福峯

春虹をまた得ぬ碧さばかりの天
車栗探る貨車は青森よりの雪
人々雪糺れつ光けりつ車窓の諧
「ひめゆりの塔」夢し彼の人かえらざる
マスクはずして暫らく春の星と伴つ
春燈の小さな瞬の出札員
東風の街金欲り合ふて急ぎをり
たゝいたり、盛んにさ
あゝとはやし立てる
活氣は、なまぐささと
共に魚屋だけの味。
さすが歳の市である
さすが歳の市である
隣へ移る。
金：金：金：
ともかくも金にかえた
いのが暮の市である。
伊勢屋の角で呉服の夕
タキ売りに見物人がた
かつて居る。紫人紺鯨
仙をひろげて長尺であ
ることを証明している
「穴もないし毛も生え
てない」と與太をとば
す、一それに裏物のネ
まけをつけて五千五百
円、安いものた」とど
なつて居るか清しひつ
かけ値段にあきれて次
の店へ行く、洋服、洋
品の店等では妻そりに
炬燵にうつくまつてい
る店番の紅はどり見て
も景氣はよく見えな
「ドウダ、このシャツ
は」元氣のいい聲を出
してオッサン自らシヤ

つた返していた。それ
く特徴ある掛壁で客
集めに傾斜だ。景氣の
よい掛壁に釣込まれて
は、覗き覗き歩いてい
ようものなら相當な時
間を費してしまひそう
だ。
もつくりする程、着
物を着た黄粉賣りが「
キナコいらんかねエー
」「キナコこうてくん
なせや」と顔も手も
着物も眞白に、箆を抱
え方言そのまゝで行き
交う人々に呼びかけて
いる。歩きながら、あ
るいはどつかり腰を据
えている人、さまざま
である。ずつと以前か
ら何時も町の人達が待
つている、大野黄粉だ
そりだ、寒風に晒され
ながら量賣りするさま
は一風變つていた。
☆ ☆ ☆

魚屋の一陣が店を張
るこゝでは大變な混雑
ぶり、並べられた魚は
マダラ、タコ、イカ、
ブリなど大小とりませ
て数万円といつたとこ
ろ冷凍魚が多くて全長
三尺の体軀にどんより
とした鈍い光の魚の目
が、夜の御座を待つて
いる様子、お客も夜の
御馳走にと値段をきい
たり、つまんでみたり
こゝではさすが買物袋
を下げた主婦といつた
人達が多く時たま自轉
車の農家の主人がいる
くらい、あちこちの店
でお客を呼んで板を

二個百円の石けんが
た賣れた、さつきから
洋服生地をひつばつて
いたお母さん、まだ思
案がきまらぬが、お客
になりそうだと、にら
んだが、このところデ
パートの賣込みに軍配
を上げた。
本格的な暮の市とは
いい、めずらしい晴天
の影響でもあろうか、
雪國特有のマントを着
た人々の中に色とりど
りのオーバードも交つて
幅せまい本町通りはこ

原稿募集
町民の聲
隨筆・小品文
短歌・俳句
詩・その他
いづれも原稿用紙使
用のこと
宛先 公民館弘報部
(選擇については公
民館弘報部にお寄せ
下さい)